

地域おこし協力隊とは？

人口減少や高齢化などが進む地方で、地域外の人を受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その地域への定住・定着を図ることで、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度です。

▷問い合わせ シティプロモーション係 (☎223・3571)

料所 宏会 遠賀町出身の芦屋町地域おこし協力隊4号です！高校卒業後、秋田県とノルウェーに住んでいました。最近、トンビにおびえています。

中尾 志保 大阪府出身の芦屋町地域おこし協力隊5号です！芦屋町に来るまでは、ずっと大阪に住んでいました。最近、腰痛に悩まされています。



△地域おこし協力隊懇親会



△あしや体験隊（着物体験）



△ビーチクリーン活動

■今年は得意なことを活かした活動を増やしたい！（地域おこし協力隊懇親会）

新年度を迎え、普段はそれぞれで活動している地域おこし協力隊3人で親睦会を兼ねたピクニックをしました。海浜公園の桜の下でレジャーシートを広げ、弁当を食べながら「桜がきれいだね」「お花見日和だね」「5年度は3人で一緒に活動することが少なかったけど、今年はそれぞれの得意なことを活かして一緒に活動していけたらいいね」と話していました。

すると突然、私の頭のそばをふわりと柔らかな何かが通っていきました。一瞬何が起こったかわからず、みんなでびっくりしていると向かいに座っていた4号（料所）が「お箸がない」と慌て始めました。私の頭を撫でたのはどうやらトンビの羽で、4号の箸はトンビに盗まれていたのです！笑 4号には申し訳ないのですが、2024年で1番笑った瞬間でした。（中尾）



△中尾イン스타그램

■皆さんのクローズアップ写真を撮りたい！（あしや体験隊（着物体験）でカメラ修行）

地域おこし協力隊1号の長島先輩に、写真の構図を良くするコツを教えてもらいました！長島先輩の撮った写真では、いつも見ている景色が別世界に見えました。普段の活動でポートレートを撮ることは少ないですが、いつか町民の皆さんの活動をクローズアップした写真を撮りたいなあと思います！構図を忘れないように、すぐにお互いを撮影して復習しました！笑（料所）



△料所イン스타그램

■住みやすい町にしたい！（ビーチクリーン活動）

観光協会や地域の皆さんとビーチクリーンをしながら、美化活動のときに気を付けることを教えてもらいました！海がとってもきれいな芦屋町ですが、捨てられたものや漂着したものが多いことが気になっていました。協力隊が住みやすい町づくりに貢献できたらうれしいので、今後定期的にビーチクリーンを行いたいなあと考えています。見かけたときは気軽に声を掛けてくださいね（*^^*）♡（料所）

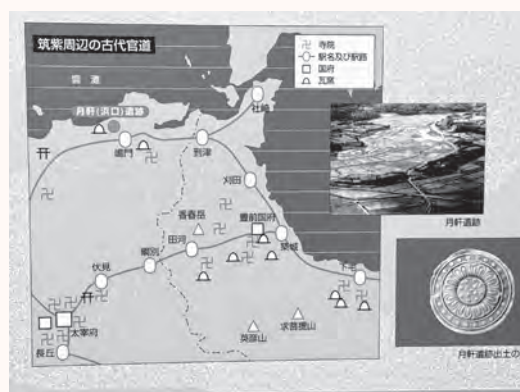
芦屋歴史紀行

その三百三十七

月軒遺跡の再評価② 白村江の戦い以降

前回のあらすじです。朝鮮半島では、唐が新羅を助けて百済を破りました。斉明天皇は、661年に百済救済のため、中大兄皇子とともに大和から筑紫へ下りますが、朝倉広庭宮で亡くなります。中大兄皇子は、突如、国防の総指揮を執ることになりました。朝鮮へ送られた日本軍は、667年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗します。

海外での戦いに敗れた大和政権は、唐・新羅軍から攻め込まれる可能性に恐怖し、国土の防衛に全力を挙げることになりました。具体的な防衛策として、宣化天皇の時代（在位535～539年）からあった九州の政治・軍事を司る役所を那の津（現在の福岡市）から、現在の都府楼跡（大宰府政庁跡）に移しました。さらに、亡命してきた百済の貴族や技術者を使い、大野城・基肄城・鞠智城・水城を構築し、防衛体制を整えました。九州北部から瀬戸内に分布する神籠石と呼ばれる史跡は、同時期に築かれた防衛城塞の跡と考えられています。



△筑紫周辺の古代官道

これらの防衛城塞と並行する形で整備されたのが、国の中央・地方間の緊急時の情報を伝達するための駅伝制と呼ばれる交通・通信制度です。これらを利用し、外敵に備え、中央集権国家として機能させようとしたことがうかがわれます。国家存亡に際して、政治・軍事と共に交通情報伝達制度の全国的整備を行うことを意図したようです。駅路は、目的地に最短距離で到達するように直線的路線をとって計画的に敷設され、原則として約16キロメートルを基準に駅家を配置し、馬を置き、駅使の休憩・宿泊場所を備えました。各駅家は、計画的に配置さ

れ、常備する駅馬の数は、その重要性により増減されました。天智天皇（在位668～671年）の時代に駅路が機能し始め、天武天皇（在位673～686年）の時代には、全国的な展開がなされたというのが、古代交通史研究者の一般的な見方とされています。

ここで浮かび上がってくるのが月軒遺跡です。芦屋ボートレース場の南に位置するこの舌状台地を昭和53（1978）年に芦屋町教育委員会が県の協力のもと発掘し、多量の古瓦と礎石（建物の柱の基礎となる石）が発見されました。

残念ながら具体的な建物跡は見つかりませんでした。瓦の分析から色々なことが分かりました。一つ目は、奈良時代から平安時代にかけて施設があったことです。二つ目は、鴻臚館（飛鳥・奈良・平安時代の外交施設）や大宰府政庁で使われた瓦と同じ瓦が発見されたことから、月軒遺跡付近に公的施設があったことが分かりました。このことから、律令時代の国の定め事を記した「延喜式」に記載されている「島門」の駅、もしくはその機能の一部が月軒の丘にあったとする研究者が増

えています。島門駅は、23頭の馬を配置する筑前最大の駅とされています。これは、陸路のみならず、筑豊へ延びる遠賀川、洞海湾へ通じる江川、響灘の要港芦屋津が重なる水陸交通の要衝として、この地が重要視されていたことの現れであると考えられています。（芦屋歴史の里）

編集後記

▼信号無視のトラックにはねられ、胃ろうになった家族がいまいた。苦しさのあまり涙が出る痰の吸引を2時間に1回。無意識に管を抜かないよう、手はずっと縛られたまま。でも警察から「加害者にどのような対応を求めますか」と聞かれると、ほとんど動かさなくなった指先で何とか字を書き「加害者にも家族がいるのでしうから、穏便な対応を」と、伝えていました。「何かしてほしいことはありませんか」と聞くと「トマトが食べたい。牛乳が飲みたい」と。一生水も飲めないことは本人には知らされなまま、2年間生き続けました。6年経った今でも、交通安全の記事を書くだけで涙が出ます。（野中）

